

茨城事業所の開設に思う

関東支部 大久保 雅弘

2025年3月、協友アグリ（株）のつくば研究所並びに茨城営業所が事業所として筑西市(旧下館市)のすぐ隣町に開設となりましたのも、何か強い縁結びが、あったものと感じております。

思い返せば昭和40年（1965年）11月、川崎工場からの移設に伴い関東工場として開所以来、粉剤はもとより一世を風靡したガンマー粒剤、マメット粒剤など昼夜兼行24時間体制での製造が始まりました。昭和41年

（1966年）には事業所制の採用により工場内に営業所が併設され製造、販売の一環体制が確立されました。しかしながら時の経過と共に近隣に市民病院が建設され騒音、臭気問題などの発生もあり、工場は平成4年（1992年）閉鎖となり、粒剤設備などは山形工場へ移転となりました。現在の工場跡地は昔の面影はなく、ショッピングモールと変身し近隣住民の無くてはならない生活拠点となっております。

茨城県は、水稻、果樹、野菜等あらゆる農産物の大生産地として、巨大消費地である首都圏への供給を担ってきました。加えて名所旧跡にも事、欠かくことなく筑波山（海拔877m）は関東平野の名山として西の富士山と並び称せられています。この度、開設された事業所はその「つくば山」の紫峰（男体山、女体山）に抱かれた風光明媚な地形の麓に抱かれ周囲は田園風景が広がり研究施設としてはもとより、販売拠点としても県の中央部に位置し最高の地の利を生かした拠点となっております。

また、その南麓の台地には首都圏の過密緩和を目的として建設された新都市「つくば市」として多くの国立研究機関や筑波大学などが立地し高度な研究教育の拠点を形成しています。街に入ると高層マンション群のなかに研究者らしき知的風人々や外国人も多く見受けられ商店街も近代的な都会風でいささか周囲の田園風景と相まって違和感が感じられる昨今です。加えて高速鉄道の運行により都心との距離は40分、通勤圏内と変貌し周辺の景色は、様変わりとなりつつあります。

温暖な気候に恵まれ風水害等の災害も少ないことから県民の性格は「のんびり屋」と称されています。言葉使いは粗野さを感じますが、温厚篤実？で決めごととは即断即決、と速く誤りがあれば後日修正すれば良いという性格か、周囲に何も無い関東平野育ちの広さを感じます。よつて車の運転も茨の字の「草冠」に気をつけろ！と他県ナンバーからはご批判を頂いていましたが最近「つくば」に変更され些かインテリジェント都市への変遷で多少はレベルアップしたのではないかと自負する昨今です。

こんな県民性に惚れて山国育ちの私も、此处に骨を埋めるべく永年の住まいとしております。

2025年7月8日